



お米パワー

高崎市立佐野小学校 5年 田村 遼介

「ヨッシャー！」

「ナイスコース！もう一本！」

大きな声がひびきわたっているテニスコートに、ぼくは毎日のように通っている。きっかけは、三年生の時、家の近くのテニスコートで練習している小学生たちを見かけ、父のすすめもあって何気なく始めたことだった。二年間そのクラブチームでお世話になった後、もっと強くなりたい！試合で勝ちたい！という思いが高まり、他のクラブチームへ移ることを決めた。ぼくの家からは車で一時間もかかる所で練習しているチームだ。

新しいチームに入って、かんとくに最初に言われたことは「ごはん」についてだった。「練習や試合がある日は、必ず「お米」を食べなさい。力が出るから。」

と。その日から、ぼくの生活はガラリと変わった。

学校から帰ってくると、最初に、ご飯を炊く。なぜかというと、夜六時～九時のナイター練習に行く前に、車の中でおにぎりを食べるためだ。お米のとぎ方や水の量、炊飯器のスイッチの選び方など、今までやったことのないことを母から教わった。ご飯が炊けるまでの間、宿題をやって父や母の帰りを待つ。だんだんと、父や母が帰って来てからおにぎりを作ってもらうよりも、ぼくが自分で作った方が一分でも早く家を出発できるな、と思うようになり、初めて自分でおにぎりを作ってみた。もちろん、自分の分だけでなく、運転してくれる父や母の分もだ。ぼくが初めて作ったおにぎりを差し出すと、父や母は、「形も上手だし、味の加減もいいね。おいしいよ。ありがとう。」

と言ってくれた。ぼくはとてもうれしかった。毎日車で一時間、ぼくが作ったおにぎりを食べながら、父や母とたくさん話をしながらナイターに向かうこの時間が好きだ。主に父とはテニスの話、母とは学校の話をしている。

今年の八月、ぼくにとって、とても大事な県大会があった。優勝をねらって気合いが入っていた。早朝から母がおにぎりを作ってくれた。具材はぼくの好きな梅とわかめで、小さめに五つ。試合の合間にさっと食べられるサイズにしてもらった。

結果は三位だったが、ぼくにとっては初めてのメダルだったので、とてもうれしかった。表彰式の間、感謝を伝えたい人がたくさんうかんできた。熱心に教えてくれたかんとくやコーチ、一緒に練習に励んだ仲間、テニスの相談に何でも乗ってくれる父、おにぎりを作ってくれる母、そして、田んぼでお米を作ってくれる祖父のこと。みんなの首にメダルをかけてあげたいと思った。同時に、「お米パワー」にも感謝した。体づくりだけでなく、ぼくの経験や心を豊かにしてくれたからだ。

ありがとうお米！そして、これからもよろしくね。